

言葉の育ちを豊かにする絵本 — 想像力と創造性をめざして —

仲野悦子

岐阜聖徳学園大学教育学部非常勤講師

A Picture Book that Enriches Vocabulary Understanding: Aiming for Imagination and Creativity

Etsuko NAKANO

キーワード：絵本 領域「言葉」 園内研究 連続性 保育の質の向上

I. はじめに

那加保育園では、園内研究として平成28年度から令和2年度の5年間、子ども達に「自分の思いを言葉や行動で素直に表現できるようになって欲しい」という願いから、日々の保育に絵本を取り入れた活動を実践してきた。保育内容「言葉」の領域に意識的に目を向け、豊かな想像力と創造性を育む力を育むために、0歳児から5歳児までの連続的な活動として「絵本」をより「効果的」かつ「無理なく」日々の保育や公開保育に取り入れた保育を展開してきた。子どもの成長に伴って語彙数をより多く増やすことによって、自分なりの言葉で子ども達同士や保育士とのコミュニケーションを豊かにする言葉の発達にも繋がっていくという仮説を立て、保育者間の共通認識の下で様々な工夫を取り入れながら子ども達と一緒に絵本の魅力を探ってきた。

絵本は、教科書のない乳幼児教育にとって日々の保育に当たり前のように入れられ、常に保育になくてはならない教材の一つである。語彙の獲得だけでなく、絵本を通して基本的な生活習慣・自然・様々なお話の世界・日本の文化を知るなど、言葉と共に視覚的にも解りやすく子ども達に伝えられている。このような絵本を様々な視点から研究していった。

II. 園内研究5年間の取り組み：「豊かな想像力と創造性を育む力を育てる」を求めて

1. 参加保育士

表1 年度ごとによる園内研究参加保育士の内訳

年 度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度
常勤保育士	12	16	15	17	16
非常勤保育士	4	4	4	5	5

2. 5年間の取り組み

*平成28年度

願い <絵本を通して言葉の育ちを培う>

取り組み・言葉の発達を見直すための年齢別発達表¹⁾を作成する。

・年齢に合わせた絵本リスト²⁾を作成する。

・絵本を取り入れた公開保育を実践する。

成果 絵本の読み聞かせをすることで、子ども達の好奇心が膨らみ意欲的な活動に繋がっていくことができてきた。

今後の課題・今年度の取り組みを継続する。

・絵本からたくさんの言葉に触れる機会を増やす中で「3つの言葉の力」(伝える力・興味を持って聞く力・考える力)を育む。

*平成29年度

願い <絵本から多くの言葉に触れる機会を増やし、言葉を育む中で「伝える力」「興味を持っ

て聞く力」「考える力」を身に付ける＞

取り組み・ねらいに沿った年齢別公開保育を実践する。

- ・絵本の活用方法や「10の姿」に沿った分類分けを検討する。
- ・読み聞かせの方法や技術を学ぶ。

成果・未満児クラス：絵本を通して保育士の身振りや手ぶりを真似したり、自分の思いを擬音語や簡単な言葉で表現したりすることが増えた。

- ・以上児クラス：積極的に自分の思いやイメージを話したり、文字・数字への興味が高まり言葉見つけをする姿が多く見られるようになった。
- ・保育士が読み聞かせ方を学び日々の保育で実践していくことで、聞く姿勢を意識することが出来、集中して聞けるようになり少しずつ変化が見られた。
- ・より多くの絵本と出会う機会を作っていくことで、さらに絵本への興味・関心が深まり子ども達からの言葉も多く聞こえるようになった。

今後の課題・引き続き活動をしていく中で、「したり、見たり、聞いたり、感じたりなどしたことを自分なりの言葉で表現する力」を身に付けていく。

- ・新保育所保育指針に示されている“幼児期の終わりまでに育って欲しい姿”の10項目に分類した絵本リストを作成した。この結果をもとに、年齢・ねらい・実態に沿った絵本かどうかなどの情報交換を行い今後につなげていく。

*平成30年度

願い <「自分の経験したことなどを言葉で表現し、相手と伝え合う楽しさを味わって欲しい」とし、実践していく＞

取り組み・「10の姿」に沿った分類分けを更に検討し、その中で3つに絞り活用方法や反応をまとめ、一覧表にする。また、保護者に活動を写真や文章で知らせる。

- ・年齢、実態、ねらいに沿った絵本であるか検討し、活動に活かしていく。
- ・言葉遊びなど言葉で表現する楽しさを味わえるような公開保育を実践する。

成果・絵本だけでなく“幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿”を意識していくことで、明確なねらいを持ち、すべての姿の活動へ意識的に取り組むことができた。

- ・未満児クラス：年齢や生活の実態に沿った絵本を利用したことで、場面に合った簡単な言葉を使えるようになり、知っている言葉でのやりとりが盛んになってきた。
- ・以上児クラス：様々な絵本や言葉遊びを通して、人の言葉や話しなどをよく聞き、自分の経験したことや考えたことを話し、コミュニケーションを楽しむ姿がより見られるようになった。
- ・3つの姿に絞ったことにより、年齢ごとに行うべき活動が明確になり、自分のクラスだけでなく全体を通した発達過程に見通しを持てるようになり、保育士同士の共通理解にも繋がった。

今後の課題・身近な人に親しみを持ち、日常の挨拶や生活の中で言葉の楽しさや美しさに気づき、言葉をより豊かにする。

- ・具体的な活動内容を記録し、0歳児から5歳児更には小学校へと見通しを持って保育を積み重ねる。

*令和元年度

願い <語彙を増やしコミュニケーション能力を高めることで、自然に想像力や創造性が育まれるであろう＞

取り組み・遊びに発展できるように工夫する。

- ・日常の挨拶など生活の中で言葉を豊かにする。
- ・自分の言葉で話せるように発表する場を設ける。

成果・身近な人に親しみを持ちながら日常の挨拶が進んでできる子が増え、挨拶の広がりを感じられた。また、言葉の楽しさに気づき、保育士だけでなく友達や親子同士でコミュニケーションを多く取ることにより言葉をより豊かにすることもできた。

- ・保育を継続的に計画・実践しいろいろな体験したことを記録した結果、イメージや言葉

を豊かにする力が身についた。それにより、子ども達の主体性に任せたごっこ遊びに繋がり、さらなるコミュニケーション能力の向上にも繋がっていった。

- ・保護者の興味や関心、さらに理解が広がり、保育に巻き込むことができてきた。

今後の課題・これまで行ってきたことを継続していくことで、さらに自分の思いやイメージしたことを言葉で伝えたり、相手の言葉を聞けるようになることで主体的な遊びを広げていけるようにする。

- ・人との関りが深まることで、言葉から相手を思う“思いやり”の気持ちが育まれていくようにする。
- ・保護者の興味や関心、理解を高め、さらに巻き込めるようにしていく。
- ・「10の姿」に分けた那加保育園オリジナルの絵本リスト³⁾を活用していく。

***令和2年度**

願い <継続していくことで、さらに自分の思いやイメージしたことを言葉で伝えたり、相手の言葉を聞けるようになることで主体的な遊びを広げていけるようにする>

取り組み・継続することでより主体的な遊びに発展させる。

- ・人との関りが深まる中で、言葉から相手を思う“思いやり”の気持ちを育む。
- ・クラス絵本を掲示することで、保護者の興味や関心、理解を深める。

成果・保育を継続的に計画・実践し、様々な体験をしたことで子ども同士の言葉でのやり取りが増え、コミュニケーション能力の向上にも繋がっていった。

- ・身近な人に親しみを持ちながら、自分の言葉を聞いてもらうことにより、相手の言葉を聞こうとする気持ちが芽生えた。これによって、言葉から相手を思う“思いやり”の気持ちが育った。
- ・保護者の興味関心が広がり、親子の間でも絵本を通してコミュニケーションが増え、会話を繋がった。

3. 絵本を通した保育実践

(1) 4歳児 公開保育 <「はなさかじいさん」ってどんなお話かな?>

*活動の目標：物語に親しむとともに言葉のやり取りを通じて喜びを味わう。

*活動時間数：全11時間

*活動設定理由：言葉で表現して保育士や友達に伝えられるようになって欲しい。
発表会に向けて子ども達同士が話し合いながら取り組み、創り上げる楽しさを知る。

*活動指導計画

第1次	…… 絵本に親しもう	全5時間
	・「はなさかじいさん」を見よう	
第2次	…… 物語の世界を知ろう	全6時間
	・「はなさかじいさん」の中で分からなかった言葉を伝えよう。	1時間
	・「はなさかじいさん」はどんな話だったか振り返ってみよう。	2時間
	・「はなさかじいさん」の感想や疑問を友達の前で発表しよう。	3時間（本時3時間目）

*配慮と環境構成 <配慮>・絵本の世界を想像したりイメージが豊かに広げられるようにしていく。

- ・一人ひとりの話す姿を褒めていき、自信に繋げていく。
- ・話を聞く姿勢を意識できるよう声掛けをしていく。

<物的環境構成>・見やすいように大型紙芝居を用意する。

- ・クイズ用のペープサートを用意する。
- ・場面が分かる絵を用意する。

<空間環境構成>・密にならないように遊戯室の広い空間を利用する。

図1 保育指導案

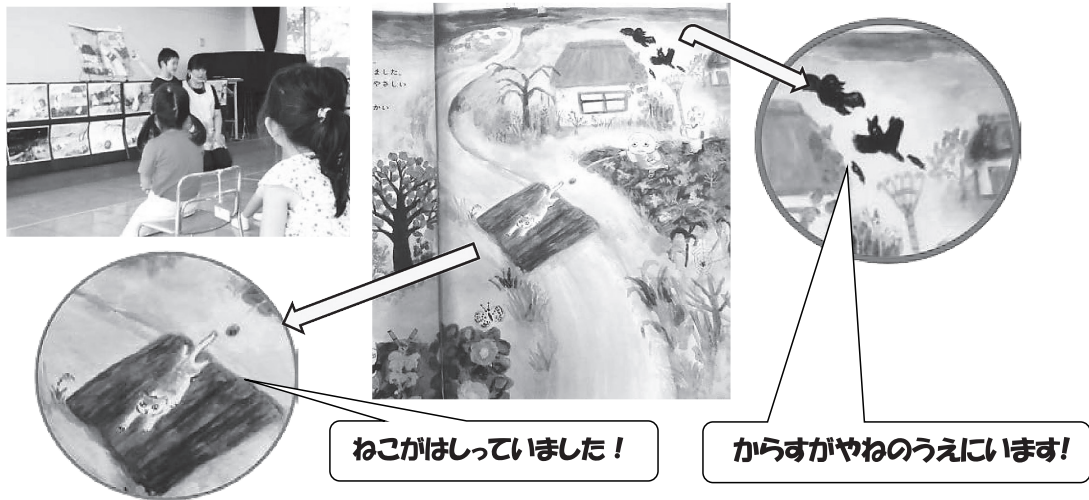


図2 公開保育 「はなさかじいさん」ってどんなお話かな？

このお話はクラスとして1年間親しむ絵本教材である。しっかり読み込むことで劇発表へと繋げていくお話でもある。その過程の一つとして公開保育による活動を取り上げた。一人ひとりが自分の思いを人前で伝えられるように教材を分かりやすく大きくしたり、「〇×クイズ」でお話をふり返ったりして興味を持てるように工夫した。子ども達は、お話の世界を物語から理解するばかりでなく、描画（視覚）からも想像し楽しんでいることが理解できた。

(2) 月刊絵本を取り入れた保育活動



雨が降るたびに「スーパーてるてるに晴れにしてほしいな！」という声。水遊びの初日に雨が降り、楽しみにしていた子ども達から「スーパーてるてる」を作りたいとの声が ……

「てるてる坊主」にマントをつけて、みんなで強い「スーパーてるてる」を作ろう！

「明日は晴れにして！」とみんなでお願ひし、保育室の前のテラスにでき上がった「スーパーてるてる」を飾った。



翌日、登園してきた子ども達

翌日、晴れることを確認した保育士は、子ども達の降園後に砂や茶色の絵の具で「スーパーてるてる」を汚したり、マント破っておいた。

「先生、お天気になったけどもしかして」「てるてる達かな？」と興奮気味の子ども達、「みんなで部屋に行ってみよう！」変わった姿に「やっぱりスーパーてるてるが雨と戦ってくれたんだ！」「空を飛んだんだね！」「飛ぶ練習をして落ちちゃったのかな？」「てるてるのおかげで水遊びができるね！」「ありがとう！」と、それぞれ自分たちで想像しながら話を膨らませていた。

その後、子ども達から「ありがとうの手紙を書きたい！」という声が …… 完成した手紙を一人ずつポストに入れていった。



その日、「スーパーてるてる」を外し、代わりに返事の手紙を付けておいた。

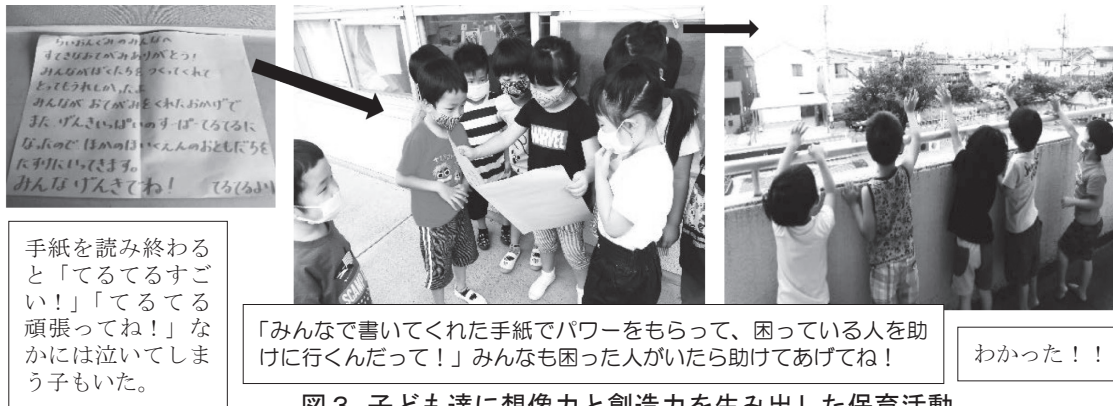


図3 子ども達に想像力と創造力を生み出した保育活動

月刊絵本『スーパーてるてる』⁴⁾を読み込む中で、水遊びができないという現実「どうしたらできるだろう?」と考えた子ども達。保育士が仕掛けることでさらに活動を発展させた事例である。「手紙を書きたい!」という素直な思いが、お話をより創造的にさせ子ども達の心に残るものとなった。

4. 5年間の成果

- ・日々の保育の中で、絵本をより効果的に無理なく取り入れていった。絵本の中に出てくる言葉を友達や保育士と言葉のやり取りを繰り返すことで語彙数が増えていった。
- ・年齢や発達に合わせた絵本を取り入れた保育を継続することで、話を聞く態度が意識され集中して聞く、積極的に自分の思いやイメージを話すなど文字・数字への興味関心が見られるようになった。
- ・相手の言葉や話などをよく聞き、繰り返し自分の経験したこと考えたことを人前で話すことで自信が付き、劇発表では大きな声で自分の台詞を言えるようになった。
- ・友達同士や親子でコミュニケーションを多く取ることで言葉をより豊かにすることができた。
- ・身近な人に親しみをもち、言葉から相手を思う“思いやり”の気持ちが育った。

図4 絵本を園内研究として意識的に取り入れた保育の成果

成果として、殆どの子ども達は絵本が大好きとなり生活の一部となっている。日常会話の中に絵本のお話が出てくる会話もしばしば聞かれる。しかし、今後における課題もある。自然に子ども達から日常的な挨拶が出てくること。このコロナ禍の中で乳幼児の育ちとして異常と思われる関わり方を強いられる子ども達から、相手を思いやる言葉が少しでも多く聞かれることなど、この活動を今後も継続的に続けることにより、豊富な語彙の獲得と併せてコミュニケーション能力の充実にも繋がっていくと考えられる。

Ⅲ. 絵本を取り入れた保育活動から見た子ども及び保育士の育ち

0歳児から5歳児までの子ども達に、5年間積極的に絵本を取り入れた保育活動を実践してきた。園には約2000冊近くの絵本があり、日々の保育に取り入れているだけではなく、公共の図書館から1か月ごとに2人の保育士が交代で50冊の絵本を借り、子ども達と一緒にお話の世界を楽しんでいる。⁵⁾ また、外部講師による「読み聞かせ」も2か月ごとに1回程度実施し、楽しむだけではなく読み聞かせのテクニックも学ぶことができた。

絵本は言葉だけではなく、描画からもイメージを膨らませることができ、美術表現を豊かにしたり総合表現として劇発表にも繋いでいく活動になっている。日々の保育から子ども達の育ちばかりでなく、保育士としての成長も見られた。

1. 常勤保育士 14人

表1 アンケート参加常勤保育士の内訳

年数	5年					4年	3年	2年		1年
担当	担5	担4/F1	担3/F2	担2/F3	主任	担4	担3	担1/F1	F2	担1
人数	2	2	2	1	1	1	1	2	1	1

(※担：クラス担任担当 F：フリー担当)

2. 5年間の子ども及び保育士の成長

*子どもとしての成長 (「◇」: 未満児、「・」: 以上児)

- ◇ノントランを使って基本的な挨拶（おはようございます、さよならなど）を伝えていくことで、子ども達は挨拶の言葉を覚え日常的に挨拶ができるようになった。
- ◇絵本が好きになり、保育士に“ガチャガチャドンド”と見たい絵本を要求することもある。
- ◇文字数の多い紙芝居を読むとき、とても静かに集中して見ており、話しが終わると「○○はこうなちゃったね」と話の内容を伝える姿があった。絵を見ているだけではなく聞くこともしっかりでき聞く力が育っていることに驚いた。
- ◇2歳児クラス、まだ言葉が上手く出てこなかったり表現できなかった時に、絵本の中に出てくる言葉を真似して言うことで、かみつきや手が出るのが減っていった。その時子どもの成長を感じた。
- ◇2歳児「ぞうくんのさんぽ」を読む中で、身体を使って場面に合った表現をしたりするなど子ども達が自ら楽しんでやろうとしていた。製作に繋がった時には、保育士が決めるのではなく子ども達が好きな場面を選んで作ろうとしている姿があった。
- ◇絵本の見やすい場所を決め座ってみることで、集中力や聴く姿勢も身につく維持できる時間が少しずつ増えた。
- ◇絵を見て楽しむ、リズムを楽しむという年代の子ども達も、様々な絵本を読み聞かせを通して「なぜ?」「どうしてこうなったの?」と疑問を持ったり、登場人物に対し「うれしそう」「かわいそう」など、具体的な思いを持ち感想を口にする子が増えた。

図5 子どもとしての成長（未満児）

- ・子ども達の言葉の豊かさや表現に面白さを感じたり、自分達でお話の世界を作ったり、主人公の気持ちを考えることやお話の場面を深く読み取る姿を見ることができた。
- ・言葉を意識するなかで、絵本に出てくる色や動物などに興味を持ち遊びの中でも色や名前などを言ったり、分らない言葉を保育士に聞いて言ってみたりすることが多くなった。
- ・ルールなどを学び、遊んでいる時に子どもなりに取り入れて遊んでいる姿が見られた。
- ・見る力や聞く力がついた。また、絵画での表現力の幅が増した。
- ・文字を認識し興味を持ったことで文字への興味や関心を深め、友達と“しりとり”をしたり、絵本を読み合ったり文字を書いたりして楽しんでいる姿が見られた。
- ・発表会の取り組みでは絵本の内容や文章まで覚え理解したことで、子ども達から意見を出しながら大道具を作ったりした。子ども主体となって楽しく取り組めたことは、一年を通しての取り組み活動としたからこそと感じた。同時に積み重ねていくことの大切さを改めて感じる事ができた。
- ・絵本に興味を持って聞いている子は、階段壁面やクラスの壁面飾りを見て「これ○○に出てきた○○みたいだね」「○○もあるといいね」など、自然に振り返りや自分の考えを友達と話している姿を見ることがあった。
- ・内容を理解しながら聞いていること、想像が豊かになっていること、語彙が増えそれを活用することが身についてきていると感じる。しかし、この力はまだ残念ながら園全体に浸透しているわけではなく、今後の課題でもある。

図6 子どもとしての成長（以上児）

*保育士としての成長

- *絵本に親しむ方法・読み方・内容の工夫・環境など少しずつ考えていけるようになった。
- *他の保育士の絵本リストを見て自分の保育に取り入れたり、絵本に関連する製作物を見たりして様々な絵本の良さを知ることができた。ますます絵本が好きになり、新しい作家の絵本にも目を向けるようになった。
- *じっくり取り組むことで、子どもの成長を感じられ繋がる保育の大切さを学んだ。
- *この活動によって子ども達の語彙数が増え、言葉で表現することの楽しさを味わうことで人間関係の深まりやコミュニケーション能力を高めることに繋がっていくという成果を感じた。
- *絵本からヒントを得た遊びや製作の知識を得ることで、保育がより豊かになっていった。
- *保育士も子どもも保育の中で絵本が当たり前になってきた。
- *保育士が絵本を好きになり、楽しく読み聞かせたり保育に取り入れたりすることで自然と子ども達に興味を持って見たり聞いたりする姿、好きになる姿が見られすごいことだと感じた。以上児だけではなく未満児でもそのような姿に繋がっていくことを経験し、この研究に取り組めて本当に良かったと感じて

いる。

- * 0歳児なりに話せなくても身振り手振りで表現したり、擬音語を取り入れた絵本などから音と言葉を動きに一致させることができるなど、コミュニケーションの手段を知ることができた。
- * 子どもの発達発育に繋がる教材として絵本を活用するとなった時、今まで情操教育の一つとして読んでいたものも、捉え方や活用の仕方では発達を促す教材になりうると感じた。
- * 保育士としてもより絵本の内容を考え知ろうとすることで、物事を読み取る力が少しではあるが身についたように感じる。絵本を見ていると自然に「この内容だとどのクラスのこのような活動に繋がるかも……」と考えながら選んだり見たりする癖がついてきた。
- * 絵本から活動へと繋がりのある保育を考えながら、計画・実践していく中で子ども達の成長を見ることができた。
- * 絵本の内容に関してのつぶやきが多く、子どもの想像力が育まれたと感じた。想像力が育まれることによって、生活する中で絵本を通して大切なことを伝えやすくなった。
- * 製作や発表会の作品として絵本を導入することで目的を明確にして進めることができ、この本のこの部分を子ども達に伝えたいと思った時、どうするべきかを考えることができた。

図7 保育士としての成長

IV. 考察

5年間、園内研修として絵本を通して子どもの育ちを追ってきた。この5年間という期間は子ども達や保育士にとり「絵本や物語などに親しみ、興味を持って聞き、想像をする楽しさを味わう」⁶⁾ ための、ゆとりのある取り組みをするための空間でもあった。保育内容「言葉」の領域から発達を常に意識しながら年度ごとに継続的に繋げていった。この活動は言葉の領域だけではなく、5領域すべての領域と関連しながら非認知能力の獲得に繋がる活動でもあった。健康：保育士等や友達と触れ合い、安定感をもって行動する。人間関係：友達との関わりを深め、思いやりをもつ。環境：日常生活の中で簡単な標識や文字などに関心をもつ。表現：自分のイメージを動きや言葉などで表現したり、演じて遊んだりするなどの楽しさを味わうなど、最も身近にある絵本を通して子ども達は言葉を獲得し人との関わり方を学んでいる。言葉を通して考えたり・聞いたり・話したりする中で他者との関係性を築き、より一層自分の興味や関心を広げていく。この過程において豊かな想像力・表現力・思考力・創造力が培われていると考える。「人間は生まれながらにして聴覚・視覚がある程度成長した状態で生まれてくる⁷⁾」と、脳科学分野の一つの研究として人とチンパンジーの子育てなどと比較して、人間としての言葉の大切さ、乳幼児期の子育ての大切さ、保護者と共に共同養育者としての保育士の役割や態度が述べられている。このことから、0歳児から取り組んでいるこの絵本活動は子ども達にとって意味のあるものと考えられる。

言葉には、〈話す・聞く・書く・読む〉活動があり、幼児教育では〈話す・聞く〉に関する活動が求められている。言葉に関する幼児教育の課題として、〈文字は読めても文の「意味」を読み取る取ることができない〉という学力調査報告から、知識の活用力が弱いと言われている。新指針には、第1章の総則4 幼児教育を行う施設として共有すべき事項として、(1) 育みたい資質・能力、(2) 幼児期の終わりまでに育って欲しい姿が告示された。この「10の姿」の中に「(ケ) 言葉による伝え合い」が示され、生涯にわたる生きる力の基礎として知識や学びをどのように主体的に取り組むかが示された。これらのことから、乳幼児教育として日々の生活や総合性のある遊びを展開する中で保育士との関わりや子ども達同士の学びを多く積み重ね、「想像力を伸ばすことや人との会話の経験を豊かにすること」により、話し言葉の貧しさや相手の思いを捉えるためのコミュニケーション不足を解消し小学校以降の学びに繋げていくことが大切としている⁸⁾。

園内研修を通しての保育者の育ちは大きい。園として質の高い保育を展開するためには、保育士一人ひとりの資質の向上と保育士としての専門性を高めることが求められている。そのためには職場内研修(OJT)と外部研修がある⁹⁾。園内研修は日々の保育の方向性を示し、職員同士の連携や協働姿勢が不可欠となってくる。外部研修は自園だけにとどまらずより広い視野に立って保育を見直す、新たな分野を開拓するというそれぞれの役割がある。現在、園として日々の保育の中に研修時間を確保することはかなり難しい状況にある。その中でどのように計画し実践していくか、園全体としてのマネジメントが求められている。

V. 終わりに

意識的に絵本を取り入れた活動を5年間、0歳児から5歳児まで取り組んだ結果、子ども達の成長だけでなく保育士の育ちをより感じることができた。当初は、この研究をテーマに掲げたもののどのように計画し実践していくのか見通しがつかず試行錯誤の繰り返しであった。絵本は日々の保育に日常的に取り入れられている。この活動をより意図的・効果的に実践するために、職員の意識統一が求められ、同じねらいに沿った保育活動が必要であると思われる。乳幼児教育は教科書や指導書が存在していない。保育士は、「保育所保育指針」を片手に、目の前にいる子どもの実態を踏まえ、人的・物的環境を整え、発達に沿って継続的に繋いでいく保育を展開する。そのためには園内研究は有効な手段である。共通認識と共通活動で保育活動を進めることでより可視化・言語化され、保育士だけではなく保護者に向けての発信もできると思われる。

長期のコロナ禍の中で、3密を避けるために行事や保育の見直しが必然とされ、現場ではその都度の工夫や対応が求められている。今まで大切にしてきた異年齢児保育や保護者との関わり行事、子ども達にとって思いっきり遊び込む直接体験・感動体験も希薄になり、言葉の育ちや心の育ちにも多くの影響があると思われる。このような状況を少しでも解消できるように、今後もお話の世界を子ども達と共に楽しみたいと考える。

謝辞

この研究は那加保育園の園内研究であり、保育士たちの創意工夫により実践された保育活動をまとめたものである。多くの実践に対し心より感謝申し上げます。

注・文献

- 1) 河原紀子 (2018) : 子どもの発達と保育の本, Gakken. 年齢別発達表を参考に、園独自の实態に合わせた年齢別発達表を作成した。生理的機能、生活習慣、全身運動、手指の操作、言語・認識(語彙数)、自我・社会性を一覧表にまとめ目安とした。
- 2) 年齢別絵本リスト : 0歳児から5歳児までお勧め絵本を年齢別に取り上げ、表紙写真・書名・作者(文、絵)・内容・出版社を記録し、分りやすい絵本リストを作成する。
- 3) <10の姿>に沿って年齢別絵本リスト : 年齢別に、読み聞かせた月・書名・作者名・出版社名・内容・該当する10項目・対象年齢・読み聞かせた回数・保育園にある図書 or 図書館・子どもの反応・展開できる保育活動を記録した。
- 4) みねおみつ (2020) : スーパーてるてる 月刊予約絵本「子どものとも」、通巻771号, 福音館書店。
- 5) 公共図書館からの絵本借りの利点として、様々な絵本に触れることができ、新鮮さや興味の幅が広がった。保育園にない絵本、新刊コーナーや図書館お勧め絵本、季節や行事にあった絵本、自分では手に取らない絵本など子ども達の成長や興味のある絵本などを選ぶようになり、借りたことがきっかけで園での購入にも繋がった。日々なかなか話す機会がない保育士ともこの活動を通して話す時間を持てた。
- 6) 厚生労働省 (2017) : 保育所保育指針, フレーベル館。
- 7) 明和政子 (2021) : 第62回東海北陸保育研究大会 愛知大会記念講演「コロナ禍での子どもの育ちを考える」。
- 8) 高山静子 (2020) : 保育内容の体系化 話し言葉の発達と教材・活動, げんき, 175号, エイデル研究所, 72-80。
- 9) 田中まさ子・仲野悦子 (2007) : 保育者を支援するより良い研修をめざして, みらい, 9-24。